

ゴーヘッドズ 速報

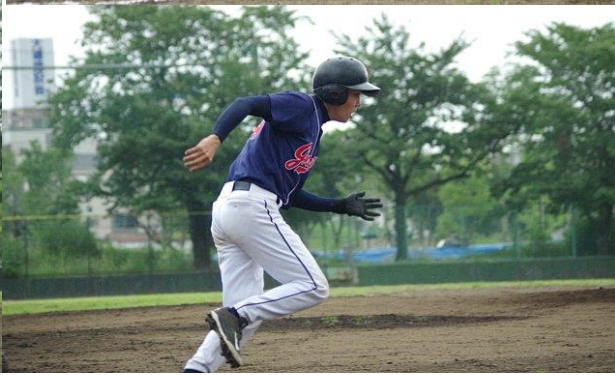
Goaheads

第21号 平成27年9月6日

久々昌平貫録の猛打賞！祐太朗はマルチ！

中盤に突き放され決勝T1回戦敗退・・・

	1	2	3	4	5	6	7	8	R
R	1	0	2	5	0	4			12
G	2	0	0	0	0	2			4



西武ドーム目指してのVictoria決勝T1回戦を小田球場に向きRetunursと戦った。過去の戦績は、1勝1敗という事も有り、序盤が大事と感じたゲームであった。先発は林が志願しマウンドに上がりプレイボール。気になる立ち上がりだが、何と死球で出塁を許す幕開けとなった。そして二番の時に二盗を決められ、その二番の三ゴロの間に走者は三塁に進塁し、一死三塁と初回からピンチを迎えた。更に三番には四球、そして盗塁と一死二・三塁とピンチは広がった。4番の打球は、三遊間を抜けそうなゴロ、これをサード深沢が横っ飛びで捕球、しかし、投げる体制が取れない中、カバーに来ていたショート祐太朗に渡し、一塁でアウトにした。が、この間にサードランナーはホームインし1失点。続く5番は三ゴロに斬り、最少失点の1点に抑え初回を終えた。その裏の攻撃、先頭哲也が左越えの安打を放つ、その後二番智の時に、二盗を決める。が、二番はスリーバント失敗に終わる。久々の祐太朗が素早い打球をショートに放つ。これを野手がトンネル。一挙二塁を陥れ、ここでこれまた久々の昌平が打席に入る。カウント1-1から振り向くと打球は右中間を真っ二つの2ベースで2走者が一挙生還し逆転に成功。更にチャンスを繋げるかと思ったが、後続二打者が倒れ2点止まり。翌2回は、林が12球で三者凡退に斬る。が、3回にまたもやゲームが動いた。この回先頭に四球、更には、次打者の時にWPで労せず二塁への進塁を許す。後続2打者を凡打に斬り二死としたが、ここから3本の長短打で2点を返され逆転を許した。更に4回には、2連続四球に2連続WPでピンチを作る。そしてここから、安打とWPとPBで5点の大量失点、この回でマウンドを祐太朗に託したが、その祐太朗の脇腹の状態が思わしくない。結果、先頭を空三振に斬るも、後続二者に連続四球を与え、更にBHを決められ、二死満塁としたが、最後は、投ゴロに抑え、この回を何とか0点に抑えた。だが、翌6回には、祐太朗も乱れる。野手の失策と四球、1個の安打にRPと巧みに絡まり、一挙4失点でほぼゲーム有り、その裏の最終回で祐太朗、昌平の安打でチャンスを作ったが、後続に1本が出ない。そして7番丸山が空三振に倒れゲームセットかと思った瞬間、捕手がこの投球を捕球出来ず、これを見た打者走者が一塁に振り逃げて到達、そして、この間にベースランナー二走者が一挙ホームインし、2点を返す。しかし、次打者が倒れ、夢の決勝進出を逃し夢は1回戦で散ってしまった。今日振り返ると、野手は2失策こそ記録したが、良く守ったと思われる。打線においては、繋がりはまだまだ必要だが、チーム安打としては、相手チームとほぼ同等、ゲームの明暗は、与四死球とWPの差である。我がチームの与四死球が2投手併せて8に対して、相手チームの投手も2投手、しかしながら、こちらは無四球、更にはWPがこちらが6に対して、相手チームはこれまた0と、バッテリーに顕著に差が表れる内容となった。打たれるのは相手が上手いから、だが、結果として打ち損じも有る。しかし、与四死球に関しては、他7人は、何も助けられない、この辺を意識し、投手は制球にこだわって欲しいと感じる内容だった。また変え時もベンチは意識する必要がある。頑張る投手を見殺しにしないためにも、その辺は今後しっかりしよう！常に心中では、勝ちゲームも逃げるから・・・